

宇宙開発の現状報告

(平成 23 年 5 月 18 日(水) ~ 平成 23 年 5 月 24 日(火))

平成 23 年 5 月 25 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

- 古川聡宇宙飛行士搭乗のソユーズ宇宙船の打上げ日時の決定について

古川宇宙飛行士搭乗のソユーズ宇宙船(27S/TMA-02M)の打上げ日時を 6 月 8 日(水)5 時 15 分(日本時間)に決定したと、JAXA は 5 月 19 日(木)に発表した。古川宇宙飛行士は、第 28/29 次長期滞在クルーとして国際宇宙ステーション(ISS)に約 5 か月半滞在し、今年 11 月頃、ソユーズ宇宙船(27S/TMA-02M)で帰還する予定である。

- 「はやぶさ」プロジェクトチームのフォン・ブラウン賞の受賞について

5 月 20 日(金)、アラバマ州ハンツビルで開催された第 30 回国際宇宙開発会議において、「はやぶさ」プロジェクトチームが、米国宇宙協会からフォン・ブラウン賞を受賞したと、JAXA は 5 月 23 日(月)に発表した。受賞理由は、「初の太陽周回天体表面への往復と試料の持ち帰り」に成功したことである。

- 赤外線天文衛星「あかり」(ASTRO-F)の電力異常について
平成 18 年 2 月 22 日に打上げられた赤外線天文衛星「あかり」(ASTRO-F)は、要求寿命 1 年、目標寿命 3 年を超えて運用していたところ、5 月 24 日(火)5 時 30 分頃、バッテリーの蓄電量の低下により、軽負荷モード(衛星の機能を最低限に維持するために消費電力を削減するモード)に移行し、搭載観測機器、Xバンド送信機の電源がオフ状態となっていることが判明したと、同日 JAXA が発表した。現在は、太陽電池パドルによる電力発生のある時間帯のみ、衛星への電力供給がなされている状態であり、JAXA は、原因調査を進め、必要な対策を講じていくこととしている。

宇宙開発に関する海外の動向

- プロトンロケット、通信衛星の打上げに成功 【露、加】
5 月 20 日(金)19 時 15 分(世界標準時、以下同じ)、インターナショナル・ロンチ・サービシズ(ILS)社は、バイコヌール宇宙基地より、プロトン M/ブリーズ M ロケットを打ち上げ、カナダのテレサット社の商業通信衛星「テルスター 14R (Telstar 14R) /Estrela do Sul-2」の所定の軌道投入(静止トランスファ軌道)に成功した。
- アリアンロケットによる通信衛星の打上げに成功 【仏等】
5 月 20 日(金)20 時 38 分、アリアンスペース社は、ギアナ宇宙センターよりアリアン 5ECA ロケットを打ち上げ、シンガポールの通信企業 SingTel (Singapore Telecommunications) 社と台湾の通信企業 Chungahwa Telecom 社(中華電気通信有限公司、略称:中華電信)の合併企業 ST-2 Satelliteventures 社の商業通信衛星「ST-2」、及びインド宇宙研究機関(ISRO)の技術実証通信衛星

「GSAT-8」の所定の軌道投入(静止トランスファ軌道)に成功した。

なお、上記の「ST-2」は、平成 20 年 12 月に三菱電機(株)が JAXA プロジェクトを通じて開発した標準衛星バス「DS2000」を用いて受注した商業通信衛星である。

- ソユーズ宇宙船帰還 【露等】

5月24日(火)2時27分、ソユーズ宇宙船(25S/TMA20)がカザフスタン共和国に着陸し、昨年 12 月から国際宇宙ステーション(ISS)に滞在していた第 26 次/27 次長期滞在クルー3名が無事帰還した。